

コミックマーケットの

あのことろ

「場」を創ったみんなの50年

おーちようこ

監修 コミックマーケット準備会

COMIC MARKET

コミック
マーケット

FRIENDSHIP
FOREVER



コミケを育んだ人々の
歴史的証言がここに集結!!

星海社

391



SEIKAISHA
SHINSHO

コミックマーケットのあのことろ

「場」を創ったみんなの50年

おーちようこ

監修 コミックマーケット準備会

はじめに 50周年を迎えたコミケを育んだ人々の証言をここに

フリーライターで現在、コミックマーケット準備会スタッフ（以下、準備会スタッフ^{*}）でもある、おーちようこと申します。

2022年12月、100回の開催を超えた、コミックマーケット（以下、コミケ）の組織と運営について、全部署の責任者の方々、コミケと関わる企業の方々の話を伺った一冊、『コミックマーケットへようこそ 準備するから準備会』を出させていただきました。そこでは、長い時間をかけ、つちかわれた知識、積み重ねられた経験、柔軟に対応する組織力、といったあらゆるものがつながり、現在へと続いている、と知りました。

同時に、思い至りました。

誰かが、この「場」を作ったのだ、と。

そんな折、コミックマーケットが50周年を迎えると知り、その成り立ちを紐解きたいと考えました。22年の新書が、あの時点での組織の横軸だとしたら、今度は誕生から現在に至るまで

の歴史という縦軸を追った一冊です。

※本書は、2025年12月時点の取材によるものです。

注 釈

*1 「コミックマーケット」、「コミケット」、「コミケ」、「COMIC MARKET」、「COMIKET」、「COMIKE」は、
有限会社コミケットの登録商標です。

目次

はじめに 3

第1章 コミックマーケット50周年

9

寄稿コラム／藤本孝人

寄稿まんが／浪花愛

第2章 コミックマーケットの誕生

21

米澤英子・明石良信・安田かほる・松田道子

◆フォトギャラリー1

第3章 コミックマーケットの黎明

57

筆谷芳行・荒井孝昭・里見直紀・

Dr.モロー・川原一晃・川上雅裕

寄稿まんが／Dr.モロー 寄稿まんが／新田真子

寄稿コラム／三崎尚人 寄稿まんが／高河ゆん

第4章 コミックマーケットの飛躍

113

市川孝一・及川晃一・牛島悦哉

◆フォトギャラリー2

第5章 コミックマーケットの安心

145

石上佳孝・石上みゆき・千葉昌宏・川端清・勝又純俊

◆フォトギャラリー3

第6章 コミックマーケットの仲間

181

横川俊・安田かほる・小人〇安

寄稿まんが／横川俊

第7章 コミックマーケットの現場から

211

部署自慢編／ミラクル編／スタッフよもやま話編

先輩・後輩・同僚編／参加者・案内編／コスプレ編

スタッフの天国と地獄

第8章 コミックマーケットの『あのころ』

239

安田かほる・筆谷芳行・市川孝一

ポスター
トラックス

あなたのコミケはどこから？

263

ポスター・カタログ表紙

264

開催データ一覧

272

おわりに

276

第 1 章

コミックマーケット

50周年

25年12月に50周年を迎えた、コミックマーケット

「コミックマーケット」あるいは「コミケット」「コミケ」は、同人誌を中心とする自費出版物の展示即売会の名称で、主催は有志のボランティア団体「コミックマーケット準備会」により、運営されています。誰もが楽しめる「コミック」の「マーケット」という、思いを込めて名付けられた、このイベントが産声を上げたのは1975年12月のこと。

C1（以下、開催回の頭にCを付け表記）こと第1回コミックマーケットは、虎ノ門とらのもんにある旧日本消防会館（80年解体）の会議室での開催。創作物を頒布はんぷする同好のグループ、通称「サークル」の参加数は32、訪れた一般参加者は700人ほどでした。

その後、回を重ね、場所を変え、多くの人たちの協力を得て、ついには3000人を超えるボランティアスタッフが尽力、19年8月のC96には、コミケ史上初となる4日間開催を敢行、一般参加者を含む参加者数延べ73万人、同年12月のC97では延べ75万人を記録、国内最大にして世界へ誇る巨大イベントへと育ちます。

運営をになう準備会は、まんが評論サークルだった批評集団「迷宮」が母体となり、そこに所属していた原田央男氏が初代表を務め、C14（80年5月）から、まんが評論家でもあった米澤嘉博氏（執筆時のペンネームは米沢のため、本書では以下「米沢」表記）が2代目代表となります。

その後、06年の米沢氏逝去により、C71（06年12月）から、長く氏を支えていた、安田かほる氏、筆谷芳行氏、市川孝一氏の3人が3代目の共同代表となりました。この間、コミケの拡大、会場との契約、警備の強化、警察・消防への届け出といった状況の変化から必要に迫られ、準備会をサポートする形で85年に株式会社コミケットを設立します（96年に有限会社コミケットに改組）。

一見、順風満帆に見えるコミケですが、その間にも実に深刻な危機がありました。

場に魅せられた同好の士が集うなか、拡大の一途を辿る一方で、運営方針を巡り立ち上げから参加した一部の仲間が離れたり、世間を騒がす数々の事件からコミケが注目を浴び、オタクへのいわれなき攻撃にさらされたり、炎天下のなか一般参加者が詰めかけたために多くの人々が倒れる事態となったことも。原作への脅迫だけでなく、パロディ・二次創作

を扱った同人誌即売会への脅迫が行われ、会場側の強い要請により、当該ジャンルのサークル参加を制限せざるを得なかったこともありましたが（C83/12年12月）。さらに、東京オリンピック開催に伴う会場の使用制限、そして記憶に新しい、未曾有の新型コロナウイルス感染症。その猛威からC100を目前にした2020年、C98の中止という苦渋の決断を迫られたことも。

けれど、継続は力なり。

常に次回開催に向け、反省すべき点は反省し、改善すべき点は改善し。回を重ね、経験を重ね、組織を作り、晴海はるみの東京国際見本市会場から、96年に誕生した日本最大を誇るコンベンションセンターである東京国際展示場（通称・東京ビッグサイト／以下、ビッグサイト）へと会場を移し、全館を借り切って開催は続きます。そして、22年8月、記念すべきC100を迎えます。

そこで常に掲げていたのは「創作のゆりかご」という確固たる信念です。

誰もが自由に参加し、心のおもむくまま、表現を楽しむ場でありつづける、という強い意思が込められています。

開催当初、参加サークルの中心は少女まんが^{ファンクラブ}FCや創作同人でしたが、TVアニメの隆^{りゅう}盛^{せい}とともにパロディ・二次創作をはじめとした多種多様なサークルが増えていきます。そこで、一般参加者に向けてサークルの紹介や配置図などを掲載した、初の『コミケットカタログ』（以下、カタログ）を82年のC21に発行され、C31より活動内容を示す「ジャンル」が生まれます。やがて、その種類も数を増し、時代にあわせてゲームやコスプレ、VTuberといったサークルも参加するように。

コミケといえば、そのときに人気を博したアニメやまんが、ゲームのサークルが注目を浴びがちですが、根強いファンが活動を続ける、オリジナル作品の創作全般、鉄道、旅行、メカ・ミリタリー、評論、情報といった趣味のサークルも健在。非公式ながらその鉄道、旅行、メカ・ミリタリーサークルの有志が始めた、閉会時、参加サークル一斉の三本締めは風物詩のひとつ。頒布物も、紙の本だけでなくオリジナルゲームや画集、コスプレ写真、音楽、動画を収めたROMや写真集、オリジナル雑貨等、そのすそ野は実に幅広く。数多^{あまた}ある同人誌即売会のなかにあつて、すべての表現活動を受け入れる懐の深いオリジナルジャンル同人誌即売会で在り続けていることが、愛され続けている理由のひとつ、でしょう。

また、コミケはその運営から、イベント開催時における多くの文化やルールの浸透、体調管理のための呼びかけも続けています。自然発生した、コミケの開場時、閉会時に起こる、全館あげての拍手は、そういった場への思いが届いているからこそ、でしょう。さらには今となっては様々な場所で見かける、大行列の最後に掲げられる「最後尾札」、同じく行列ができがちな、お手洗いや物販への「フオーク並び」といったルールをいち早く導入、世間に浸透する一助となったことも記しておきます。

それらコミケを支える組織と活動については、22年刊行の、本書と同じく星海社新書『コミックマーケットへようこそ 準備するから準備会』をぜひ。もしものために、全員が傷害保険に加入済み（！）という、3000人以上のボランティアスタッフの部署と業務の紹介、関わる企業や、その社会的存在意義までリアルな声がつまっています。

最後に、その組織図とともにコミケが掲げる、理念をここに記します。

次章からは共同代表をはじめ、その誕生に関わり、各部署を立ち上げ、継続に尽力したスタッフ陣の貴重な証言を届けます。

注 釈

* 1 俗に「クーデター」あるいは「分裂騒動」とも言われ、一時、コミケとは別のイベントが開催されていました。

* 2 俗に「ジエノサイドコミケ」と呼ばれていることは、準備会も認識していますが、スタッフの誘導不備により混乱をきたした回を、我々がそう呼ぶことを良しとせず。公式には、使用していません。

★コミックマーケットの理念

- コミックマーケットは同人誌を中心としてすべての表現者を許容し継続することを目的とした表現の可能性を広げる為の「場」である
- コミックマーケットは、サークル参加者、一般参加者、スタッフ参加者、企業参加者等すべての参加者の相互協力によって運営される「場」であると自らを規定し、これを遵守する
- コミックマーケットは、法令と最低限の運営ルールに違反しない限り、一人でも多くの表現者を受け入れる事を目標とする
- コミックマーケットは、すべての参加者に取って「ハレの日」であることを願い、これを継続していく

★参加者に向けて

- コミックマーケットに「お客様」はいません
- コミックマーケットをとり行うのはすべての「参加者」であり、内実を作っていないのも参加者です
- 参加者全員はすべて対等です
- 自由な場であるために、禁止事項など一律のルールは最小限に留めたいと考えています
- 参加者は事前にカタログ諸注意等を熟読し、コミケットの考え方やルールをよく理解していただき、マナーやモラルに従って自らを律し、相互の立場に配慮して行動することを願います

共同代表 …… 全体的な調整と意思決定

総本部

本部事務 …… 公的機関、会場、警備会社対応と全体的調整

放送部 …… 場内放送

庶務担当 …… お弁当等各部署のバックアップ対応

メディア対応部 …… マスメディアへの対応

会計 …… 会計処理

記録班 …… コミケットの公式記録

国際部 …… 海外参加者・海外メディア担当

搬入部 …… 搬入車両の管理と印刷会社対応

場外販売担当 …… リストバンド型参加証の交換、当日販売

場外救護担当 …… 主に会場外での傷病者の応急処置と救護室への搬送

入口担当 …… 会場外での参加者対応・誘導・安全管理・部外者対応

更衣室担当 …… 更衣室の運営・誘導・安全管理

公共地区担当 …… 公共エリアでの参加者対応・誘導・安全管理

受付販売担当 …… 準備会販売物の販売とインフォメーション、遺失物管理

企業対応部 …… 企業ブース・画材・食品・宅配等の企業対応

館内担当 …… 主に会場内の参加者対応と安全管理、サークル受付

救護室担当 …… 傷病者の応急処置と救急搬送の手配

コミックマーケット準備会の組織図

古漫画本の即売会かと思つて行つたら、 同人誌しか売つてなかつた。漫画の手帖・藤本孝人

ある日新聞の三行広告見てたら、「コミックマーケット開催」って広告が出てるじゃないですか。えっ、コミック(漫画)マーケット(即売会)って漫画の本の即売会ってこと? 当時古漫画のコレクターをやつてた私、その三行広告に書いてある電話番号に電話しましたよ。「もしもしコミックマーケットでは古漫画本も販売するんですか」って。そしてたぶん電話口に出られたのは、初代コミケット代表の原田さん、とてもテンションの低い声で「いやー、漫



画と言つても古本ではなくて同人誌を×××。最後のほうはよく聞きとれず、どーじんし(?)の意味もよく解らず、とにかく行つてみるしかないよ、

確か大田区産業会館に。一九七〇年代ですからコミケット4回から回あたりですかね。もちろん古漫画本はまったく売つてなくて、それでもまあ24年組ファンクラブ系の同人誌と、迷宮発行の「漫画新批評大系」買って帰りました。「漫画新批評大系」には、日本で最初の二次創作漫画(と言われる)「ポルの一族」も掲載されてて、おー!これは行つてよかつた、と。(評論は読んでない)その後、古漫画集めの延長線上のような形で「漫画の手帖」と言うミニコミを発行するようになるのが一九八〇年頃からで、コミケットは3号あたりからサークル参加させていたみたいです(▲画像)。これからもどうかよろしく。継続は力つてことで。

藤本孝人(ふじもと・たかひと)

まんがの手帖 事務局代表。1950年生まれ後期高齢者、会社員(現職)。コミケットサークル参加は常にサバイバルなのでそろそろ体力的にきつくなつてます。『漫画の手帖』は1980年創刊。現在91号まで発行。

コミケの思い出



初めて買った
創作同人誌は
ガリ版刷りの本
青焼きコピーの
本でした

おもしろい
おもしろい



階段を並んで
開場を待つ



コミック
マーケット
第一回は
一般参加で
した

おおー



創作と
アニメが
わかれる
ようになり
ました

おもしろい
おもしろい



サークル参加を
するようになり
ました

甘アミ
ファンクラブ

いろいろな
方々と
机を並べ
ました



何度も読んで
同人誌は
ガリ版の方は
ボロボロになり
青焼きコピーは
うすくねって
しまいました



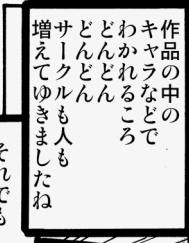
アニメごとに
わかれる
ようになり
ました

おもしろい
おもしろい

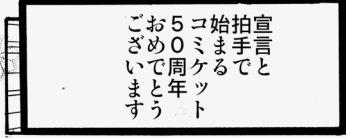


開会
いたします

それでも
かならず



作品の中の
キャラなどで
わかれるころ
どんどん
サークルも人も
増えてゆきましたね



宣言と
拍手で
開始
5周年
おめでとう
ごさいます



おもしろい
おもしろい

浪花愛 (なにわ・あい)

古い物描き。二次のみあちこち渡り歩くが商業では実録猫作家。同人歴50年以上(笑)。
(コミケがないころ高校で漫研同人していたので51年目になります！)

次世代による次世代のための

武器としての教養 星海社新書

星海社新書は、困難な時代にあっても前向きに自分の人生を切り開いていこうとする次世代の人間に向けて、ここに創刊いたします。本の力を思いきり信じて、みなさんと一緒に新しい時代の新しい価値観を創っていききたい。若い力で、世界を変えていきたいのです。

本には、その力があります。読者であるあなたが、そこから何かを読み取り、それを自らの血肉にすることができれば、一冊の本の存在によって、あなたの人生は一瞬にして変わってしまうでしょう。思考が変われば行動が変わり、行動が変われば生き方が変わります。著者をはじめ、本作りに関わる多くの人の想いがそのまま形となった、文化的遺伝子としての本には、大げさではなく、それだけの力が宿っていると思うのです。

沈下していく地盤の上で、他のみんなと一緒に身動きが取れないまま、大きな穴へと落ちていくのか？ それとも、重力に逆らって立ち上がり、前を向いて最前線で戦っていくことを選ぶのか？

星海社新書の目的は、戦うことを選んだ次世代の仲間たちに「武器としての教養」をくばることです。知的好奇心を満たすだけでなく、自らの力で未来を切り開いていくための「武器」としても使える知のかたちを、シリーズとしてまとめていききたいと思います。

2011年9月

星海社新書初代編集長 柿内芳文



SEIKAISHA
SHINSHO